

資料保存計画策定責任者であるイングマル・フロイド氏、事務局長はイギリス・スコットランド国立図書館保存部長のジョン・マッキンタイア氏、フランスからはリヨン市文書館長であり「IFLA資料保存の原則」の著者であるジャンヌ・マリー・デュロー氏、アメリカからはジョージア州立文書館保存調査部副部長でアメリカアーキビスト協会副会長のブレンダ・バンクス氏、クロアチアからはクロアチア国立文書館副館長であり、内戦状態にある祖国の資料を武力紛争から守るために献身的活動を続けているミリエンコ・パンディチック氏、日本からは私である。次回の委員会は本年6月2日から6日までスロベニアのリブリアナで開催の予定である。

日本での開催に併せて記録史料の保存を考える会主催による研修会が11月24日から26日に開催された。そこでは「災害から記録史料を守る—世界からの報告」と題して各委員から各国の文書館防災対策が紹介された。

コーディネーターとして小川委員が基調講演をおこない、防災委員会委員長のフロイド氏から「ICAと防災活動」と題してICAの目的、防災委員会設立の背景と作業計画についての報告と「スウェーデンの文書館建造物」と題して最近建設されたスウェーデンの3つの建物の紹介と時代とともに変化してきた建築基準についての講演を受けた。

マッキンタイア氏からは「防災計画の開発と災害リスクの管理」と題して防災対策の在り方および火災、水害に対する対策の事例と復旧についての講演と、「スコットランド国立図書館の事例に見る火災リスク管理」と題した火災対策の現状と対策について多くのスライドを用いた紹介を話した。

バンクス氏からは「災害対策の12のステップ」と題して、アメリカにおける文書館の防災計画と防災対策について講演を受けた。「最良を希望しつつ最悪の事態に備える」哲学の実践として昨年7月のジョージア州の大洪水における対応とジョージア州立文書館が採用した災害対策の12のステップと言われる対策

## ICA防災委員会

国際公文書館会議（ICA）の委員会の1つである防災委員会の第3回会議が昨年（平成6年）11月21日から23日にかけて藤沢市文書館において開催された。会議の開催にあたり会場の提供のみならずさまざまな協力を頂いた藤沢市文書館の高野館長に防災委員会を代表して深く感謝申し上げる次第である。

防災委員会はモントリオール大会で設置された。その任務は文書館の防災対策のガイドランを作成し、北京大会で答申することにある。これまでにストックホルム、リヨン、藤沢で委員会が持たれ、JANUSの記事とガイドランの素案および防災対策関連資料リストを作成したところである。

委員会はスウェーデン、イギリス、フランス、アメリカ、クロアチア、日本からの6名で構成されている。委員長はスウェーデンのウプサラ大学教授でスウェーデン国立文書館

を紹介した。

デュロー氏からは「フランスの文書館の保存と防災」と題して、リヨン市文書館の歴史と災害事例からの教訓さらにフランス全体の状況について講演した。

パンディッチ氏からは「武力紛争および天災と民族文化遺産の保存—クロアチアの内戦と記録史料の被害状況」と題して、現在も進行中のボスニア・ヘルツェゴビナの紛争による記録史料を含む文化遺産の被害について、また紛争による文化遺産の破損を防ぐための国際条約の必要性、さらに武力紛争に備える火災対策としての所在目録の作成、マイクロ化事業、記録史料の避難の必要性について熱心に語った。

また日本からは「災害に学ぶ史料保存施設—日本の低湿地の一事例」と題して八潮市資料館の遠藤忠氏からの講演を受けた。

世界の文書館の防災対策についての話を聞くチャンスは稀なこともあって、多くの方が熱心に聞かれた。これらの講演をまとめて近く雄松堂から出版される予定である。

小川雄二郎・国際連合地域開発センター